

【特色あるフロンティアスクールの取り組み事例】

都道府県番号	33
都道府県名	岡山県

(   )

学校名及び規模

岡山市立福浜小学校(小学校)										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	5	5	5	5	5	4	2	31		
児童数	180	176	175	166	16	154	5	1019	40	

実践研究の概要

**主題** 「子ども一人ひとりが基礎・基本を身に付ける『学びの道筋』(課題別)」

**主題設定の理由**  
 本年度から、新指導要領による教育活動が本格的に開始される。そのねらいである『基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成すること』の中で、重要な位置をしめている「基礎・基本」について、福浜小学校でも見直しが迫られている。子どもの実態を見ていくと、子ども一人一人には個性があり、基礎・基本の獲得の仕方も様々である。

そこで、教科の中でも、学年が進むにつれて理解力の幅が大きくなる、得意・不得意の意識の違いがはっきりしている、系統性がはっきりしている、児童にも家庭にも今までの学び方について見直しやすいといった観点から算数科を選び、基礎・基本についての研究をしていきたいと考えた。

子どもの学びを一年一年の細切れでなく、全学年で算数科を縦軸として組む中で、算数科の基礎・基本を身に付けさせると共に、『自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力』といった学び方を身に付けさせていきたい。

そのために、指導内容に応じた算数科で大切にしたい基礎・基本を明らかにした後、子どもの実態により各学年で最も基礎・基本を重視したものからより発展的なものまで教材開発をしていき、少人数指導・T T (T 1 - T 2, 課題別学年T T)などの指導体制を工夫した『学びの道筋』を構築していくことが大切であると考えた。

実践研究の内容について

( ) 研究体制の工夫

研究推進委員会					
校長		教頭		研究推進部員	
全体構想		評価		アンケート	
研究の方向		自己評価のあり方		実態調査	
指導体制のあり方		他者評価の工夫		学力検査等	
学校の取り組み		教科担任制		時間割の組み方	
1年団	2年団	3年団	4年団	5年団	6年団
	特殊学級				

( ) 実践研究の内容

研究の構想

基礎・基本を身に付けるストラテジー

研究仮説1

子どもが自らの興味・関心や今までに身に付けた力を発揮しながら、算数科の基礎・基本を身に付けるには、個性に応じた『学びの道筋』がある。

(研究方法)

新しい単元に必要な既習事項を確認すれば、新たな単元の学習内容が身に付きやすいのではないかと、また、新しい単元を学習した後に、発展的な課題に取り組めば算数の楽しさを味わったり数学的な考えを深めていったりすることができるのではないかと考えた。そういった点から、子どもの興味・関心を高め、今までに身に付けた力を確認しながら学習を進めていく『学びの道筋』を構築していくことが大切であると考えた。そこで、算数科の目標から以下に示すような学びの道筋を想定し、学習集団を生活集団と同一集団にして一斉に取り組む課題と学習集団を学年T Tや少人数など新たな集団を構成して取り組む課題の組み合わせを考え、算数科の基礎・基本が身に付きやすい課題別カリキュラム作りをしていく。

研究仮説2

ふさわしいタイミングに、自分にとって必要な課題を自らの判断で選択し、繰り返し取り組むと、課題解決する学び方を身に付けやすい。

(研究方法)

与えられた課題より自分で選んだ課題に取り組む方が、学習意欲が高まる。また、今までに身に付けた力を確認した上で自分に必要な課題を選ぶことを繰り返していくと、主体的に課題を選択する力や課題に関わり続ける力などが身に付いていくと考えられる。

そこで、各学年の各単元について算数科の基礎・基本が身に付きやすいタイミングを探り、今までに身に付けた力を確認する時間を設定した後、それをもとに自分が必要とする課題を選択し、解決していく授業づくりをしていく。

次のように『学びの道筋』A, Bを想定した。

A 基本的な知識と技能を身に付けるための『学びの道筋』(課題別)

課題の内容...意味理解を深める課題 (身に付けたい知識と技能を定着するための課題)

A 1

一斉	課題別
新しい単元で必要となる 既習事項の確認練習	
新しい単元	

A 3

課題別	一斉
新しい単元で必要となる 既習事項の確認練習	
新しい単元	

A 5

課題別	一斉	課題別
新しい単元で必要となる 既習事項の確認練習	新しい単元	発展課題または 基礎・基本の課題

A 2

一斉	課題別
新しい単元	発展課題または 基礎・基本の課題

A 4

一斉	課題別	一斉
新しい単元 1	力を付け直して	新しい単元 2

B 日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考えるための『学びの道筋』(課題別)  
 課題の内容...感覚を豊かにする課題(量感を養う,見当をつける,単位を実感するなどの課題)  
 創造的な考え方を養う課題(帰納的,演繹的,類推的な考えが出てくる課題)

B 1

一斉	課題別
日常から	新しい単元

B 3

課題別	一斉
日常から	新しい単元

B 2

一斉	課題別
新しい単元	日常へ

B 4

課題別	一斉	課題別
日常から	新しい単元	さらに日常へ 創造的な思考へ

実践事例

第5学年「小数のわり算を確実に身につけさせるための課題別カリキュラムづくり (A-3)」

1 単元の目標

- ・小数のわり算の計算の意味を理解して確実に計算できる。
- ・わり進む筆算や商を概数で表す筆算など,様々な小数の問題に習熟する。

2 指導計画

課題別学習(ショート6・15分)	一斉授業(45分)
《一学期の主な取り組み》 5/21 ~ 6/5 小数と整数 (診断テスト,自己評価, 課題別学習等) 6/18 ~ 7/4 小数のかけ算 (診断テスト,自己評価, 課題別学習等) 《二学期》 9/11 小数のわり算の診断テスト 9/12 自己評価(自己診断表) 9/25 小数のかけ算の復習 9/26 小数のわり算の課題別学習(1) めあてを確認する 10/1 小数のわり算の課題別学習(2) 計算練習をする(本時) 10/2 小数のわり算の課題別学習(3) まとめをする 10/8 小数のわり算の診断テスト〔再〕 10/9 自己評価(自己診断表)	《二学期》 変わり方のきまり〔7時間〕 小数のかけ算とわり算(2)〔17時間〕 ・小数のかけ算〔7時間〕 ・小数のわり算〔7時間〕 第1次 小数でわる意味,(整数)÷(小数)の 立式と計算の仕方 第2次 (小数)÷(小数)の立式と計算の仕方 第3次 (小数)÷(小数)の筆算の仕方 第4次 わり進む場合,商を概数で処理する場合の 筆算の仕方 第5次 被乗数,除数,商,余りの関係 第6次 被乗数と積,被除数と商の大小関係 第7次 練習 ・どんな計算になるのかな〔1時間〕 ・算数のまど〔1時間〕 ・復習〔1時間〕

3 指導上の立場

(1) 指導方法

児童は,既習事項について,小数のわり算の診断テストを行う。テスト後に自己診断表に記入することで自己評価をする。児童は自己評価に基づいて,自分のめあてを持ち,それに挑戦できるコースを決める。教師は教室や教師の数を増やして児童の挑戦する様々なコースに対応する。そして,クラスを解体し,児童は自分の選んだコースを学習するため教室を移動して勉強する。最後に再び教室で小数のわり算の診断テストを行い,自己診断表に記入して自己評価し,自分の伸びを確かめる。ショート6の課題別学習で勉強し理解したことが,小数のかけ算とわり算(2)の小数のわり算の学習に生かせるようにする。

(2) 学びの道筋 A-3を選んだ理由

小数のわり算(1)の理解が不十分だと,小数のわり算(2)の学習が理解しにくい。そこでショート6の課題別学習で振り返り,児童が以前に習った学習を思い出したり,習熟したりする手助けとした。そして,一斉授業での学習効果を高める目的でA-3を選択した。

(3) 課題別学習(ショート6)について

今回の小数のわり算では,1学期に一斉授業をし,2学期の小数のわり算の一斉授業をする直前に課題別学習をして児童に既習の内容を確実に定着させ,一斉授業に生かしていくという方法をとっている。

自己診断テストについて

・行うタイミング

小数のわり算の診断テストでは,1学期に学習した小数のかけ算とわり算(1)の小数のわり算の内容について,児童への定着の度合いを確かめる。今回はショート6の課題別学習で取り組んだことを小数のわり算の一斉授業で生かすため自己診断テスト,課題別学習,再び行う自己診断テストを10月中旬までに終わらせる。

- ・内容の吟味  
1学期に学習した 小数÷1位数の筆算, 小数÷2位数の筆算, わり進む筆算, 商を適当な位までの概数で表す筆算, をそれぞれ各5問, 合計20問の自己診断テストを行った。に進むにつれて難易度が増すと考えて作成した。
- ・活用のさせ方  
自己診断テストの結果をもとに, 児童は自己診断表を使って自己評価を行った。自己評価をもとに児童はショート6の課題別学習で自分が勉強するコースを選択した。自己診断テストを活用することで児童は自己評価し, 自分のめあてに応じて挑戦するコースを決めた。また課題別学習後に再び自己診断テストを活用することで, 自分の伸びを確認できる。

課題の工夫

- ・内容  
ショート6の課題別学習(1)では, 児童が6つの教室に分かれて, 学習を進めていくコースのめあてを確認し例題を解く。教師はTTで個別に児童を指導する。  
課題別学習(2)では, 6つの教室がさらに11の教室に分かれて学習を進めていく。各教室では, 教師が自作のプリントをもとに少人数指導を行う。  
課題別学習(3)では, 11の教室で, 少人数指導を行う。児童は課題別学習(2)で学習した内容以外のコースの問題にも挑戦する。
- ・グルーピングの仕方  
児童は, 自分のめあてに応じて5つのコースを選択する。その中でも選択した児童の数の多いコースは, さらに分けて少人数指導を行う。少人数指導の効果を上げるため, 教師は, なぜその児童がそのコースを選択したのか, 自己診断テストでどの問題をどのように間違えたのかなど, 座席表に記入して児童の実態をできるだけ把握することにつとめた。

4 本時案 (ショート2/3時)

目標	(小数)÷(整数)の計算の仕方をたしかめ, 課題別に分かれ筆算の処理を正確に行えるようにしたり, 立式して問題をといたりすることができるようにする。	評価					
学習活動	教師の支援						
1 本時のめあてをつかむ	<p>---1.コース---2.コース---3.コース---4.コース---5.コース---</p> <p>・前時の学習を振り返り, やり方を確認する</p> <p>めあて</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>1位数の筆算をしよう</td> <td>わる数が2位数の筆算をしよう</td> <td>わり進む筆算をしよう</td> <td>商を概数で表す筆算をしよう</td> <td>わり算の式を考えよう</td> </tr> </table>	1位数の筆算をしよう	わる数が2位数の筆算をしよう	わり進む筆算をしよう	商を概数で表す筆算をしよう	わり算の式を考えよう	前時の処理を思い出すことができる
1位数の筆算をしよう	わる数が2位数の筆算をしよう	わり進む筆算をしよう	商を概数で表す筆算をしよう	わり算の式を考えよう			
2 計算の仕方を考える (自力解決)	<p>・めあてをかくようにさせる</p> <p>・配付されたプリントの問題をとく</p> <p>・つまづいている児童にはヒントを参考にするよう助言する</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="vertical-align:top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位をわかりやすくして商に気づきやすくする・九九の表を用意する</li> </ul> </td> <td style="vertical-align:top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室にわり算の進め方を掲示しておく</li> <li>・ヒントカードを用意して個別に支援をする</li> </ul> </td> <td style="vertical-align:top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位取りについて確認させる</li> <li>・求める位のひとつ下の位まで計算するとよいことを確認させる</li> <li>・四捨五入について確かめさせる</li> </ul> </td> <td style="vertical-align:top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に考えさせる</li> <li>・立式が適切であるか個別にチェックする</li> <li>・早くできた児童のために補充問題を用意しておく</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位をわかりやすくして商に気づきやすくする・九九の表を用意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室にわり算の進め方を掲示しておく</li> <li>・ヒントカードを用意して個別に支援をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位取りについて確認させる</li> <li>・求める位のひとつ下の位まで計算するとよいことを確認させる</li> <li>・四捨五入について確かめさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に考えさせる</li> <li>・立式が適切であるか個別にチェックする</li> <li>・早くできた児童のために補充問題を用意しておく</li> </ul>	<p>筆算の仕方を前時までの学習を元に考えることができる(1から4コース)</p> <p>前時までの学習を元にわり算の立式を適切に行うことができる(5コース)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・位をわかりやすくして商に気づきやすくする・九九の表を用意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室にわり算の進め方を掲示しておく</li> <li>・ヒントカードを用意して個別に支援をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位取りについて確認させる</li> <li>・求める位のひとつ下の位まで計算するとよいことを確認させる</li> <li>・四捨五入について確かめさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に考えさせる</li> <li>・立式が適切であるか個別にチェックする</li> <li>・早くできた児童のために補充問題を用意しておく</li> </ul>				
3 確かめる (自己評価)	<p>・教師が答えを読み上げ, 確かめを行う。</p> <p>・多くの児童がまちがえやすい問題は, 補足説明を行う</p> <p>・プリンに感想を記録させる</p>	筆算の処理が正しくできたか, 適切な立式ができたか振り返ることができる					

( ) 成果と課題

成果としては, 課題が明確なため, 15分という短い時間を児童が集中して取り組むことができたということがある。また多くの教師で少人数指導を行うため, 児童一人ひとりのつまづきに応じることができた。実際にこのショート6の取り組みで, わり算の計算が分かるようになって自信を持ち, 次に勉強する内容につなげていった児童がみられた。このような課題別学習を計画的に取り組むことで, 児童のわり算についての理解を深めることができた。

課題としては, 時間の確保が難しかったということがある。自己診断テストやプリントなどを作るための時間, 児童の選択したグループをもとに話し合う時間, 他の学年の先生と打ち合わせをする時間など, 十分に行うことができなかった。時間が確保できれば, もっと効果的な時間になると思われる。

( ) フロンテアスクールとしての成果の普及について

- 研究授業への招待 (同じ中学校区の小学校の教諭の参加)
- (同じ中学校区の幼稚園の教諭の参加)
- 講演会への招待 (同じ中学校区の小学校の教諭の参加)
- (同じ中学校区の幼稚園の教諭の参加)
- 研究紀要「課題別グッドジョブ」の配布 (同じ中学校区の中学校, 小学校, 幼稚園)